

令和4年度

第47回 中学校体育授業研究会



埼玉県中学校体育連盟



目 次

挨拶	埼玉県中学校体育連盟会長	1
1	蕨市立東中学校 授業内容・指導者一覧	3
	活動の様子（写真）	4
	授業について〔器械運動（マット運動）〕	5
	研究協議のまとめ	6
2	桶川市立加納中学校 授業内容・指導者一覧	8
	活動の様子（写真）	9
	授業について〔器械運動（マット運動・跳び箱運動・鉄棒運動）〕	10
	研究協議のまとめ	11
3	入間市立藤沢中学校 授業内容・指導者一覧	13
	活動の様子（写真）	14
	授業について〔球技（バドミントン・アルティメット）〕	15
	研究協議のまとめ	16
4	東秩父村立東秩父中学校 授業内容・指導者一覧	18
	活動の様子（写真）	19
	授業について〔武道（柔道）〕	20
	研究協議のまとめ	21
5	秩父市立尾田蒔中学校 授業内容・指導者一覧	22
	活動の様子（写真）	23
	授業について〔球技（バドミントン）〕	24
	研究協議のまとめ	25

6	本庄市立西中学校 授業内容・指導者一覧	27
	活動の様子（写真）	28
	授業について〔球技（サッカー・バスケットボール）〕	29
	研究協議のまとめ	30
7	熊谷市立別府中学校 授業内容・指導者一覧	32
	活動の様子（写真）	33
	授業について〔陸上競技（長距離走）〕	34
	研究協議のまとめ	35
8	羽生市立西中学校 授業内容・指導者一覧	36
	活動の様子（写真）	37
	授業について〔陸上競技（長距離走）〕	38
	研究協議のまとめ	39
9	蓮田市立蓮田中学校 授業内容・指導者一覧	40
	活動の様子（写真）	41
	授業について〔球技（バスケットボール・サッカー）〕	42
	研究協議のまとめ	44
10	さいたま市立西原中学校 授業内容・指導者一覧	46
	活動の様子（写真）	47
	授業について〔球技（アルティメット）〕	48
	研究協議のまとめ	49

挨拶

埼玉県中学校体育連盟

会 長 高 橋 利 明

第47回目を迎えた中学校体育授業研究会は、新型コロナウイルス感染症の影響で開催が心配されましたが、県内10地区において、感染拡大防止対策を講じた上で開催していただきました。県中学校体育連盟の中核をなす事業の一つとして、埼玉県教育委員会、さいたま市教育委員会をはじめ各教育事務所、県立総合教育センター、関係市町村教育委員会の御支援、御協力のもとに開催されましたこと、深く感謝申し上げます。また、県内各支部中学校体育連盟の先生方ならびにそれぞれ研究テーマを掲げた授業を提供してくださいました県内10校の校長先生をはじめとした諸先生方に心より御礼申し上げます。

昨年度から全面実施となった新学習指導要領では、体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することが求められています。したがって、この中学校体育授業研究会における研究活動の成果を各学校で生かすとともに、小・中・高が連携・協力していかなければならないと考えております。

結びに、資料を作成された先生方並びに本研究会の運営に御尽力いただきました各支部中体連の先生方、そして、適切かつ丁寧な御指導をいただきました県教育局県立学校部保健体育課、各教育事務所、県立総合教育センター、さいたま市教育委員会、関係市町村教育委員会の先生方に衷心より感謝申し上げ、挨拶とさせていただきます。

蕨市立東中学校

単 元 名

- ・ 器械運動（マット運動）

授 業 者

松 本 好 正
千 葉 恵 子

研究協議会

- ・ 第1分科会 〔ICT の活用と体育の学習評価〕
- ・ 第2分科会 〔ICT の活用と資質・能力の育成〕

司 会 者

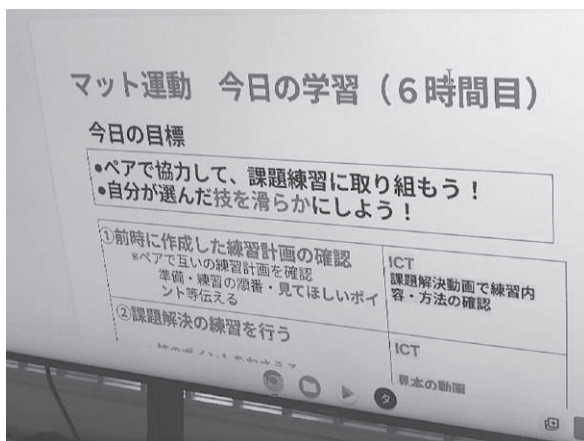
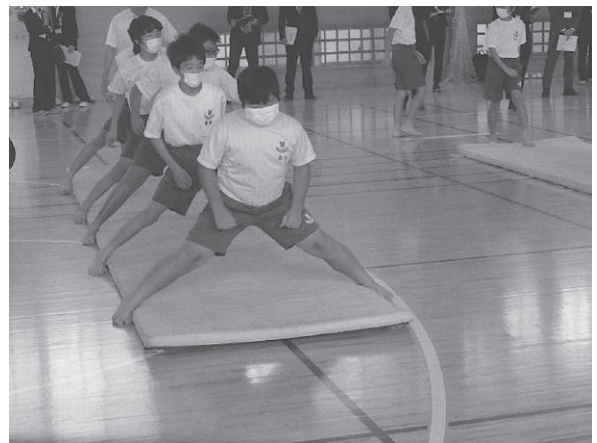
- ・ 第1分科会 上 原 詩 織 （新座市立第三中学校）
- ・ 第2分科会 森 田 順 啓 （草加市立草加中学校）

指導・助言者

埼玉県教育局県立学校部保健体育課主任指導主事
埼玉県教育局南部教育事務所指導主事
蕨市教育委員会教育部学校教育課学校保健係長

小 村 純
熊 田 大 樹
内 田 敦 子

《活動の様子》



蕨市立東中学校

単 元 名	器械運動（マット運動）
指 導 者	松 本 好 正 ・ 千 葉 恵 子
単 元 目 標	○マット運動について、技ができる楽しさや喜びを味わい、その特性や成り立ち、技の名称や行い方、（その運動に関連して高まる体力）などを理解するとともに、技をよりよくできるようにする。【知識及び技能】 ○技などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】 ○マット運動に積極的に取り組むとともに、（よい演技を認めようとする）、仲間の学習を援助しようとする、（一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとする）などや、健康・安全に気を配ることができるようにする。【学びに向かう力、人間性等】
本時の目標	○自分が選んだ技で滑らかに回転することができるようにする。【知識及び技能】
授 業 内 容	1 場の設定 2 集合、挨拶、健康観察 3 準備運動、補強運動、感覚づくりの運動 4 本時のねらい・内容確認 5 練習計画の確認 6 ペアで課題解決学習 7 タブレットで出来映え確認 8 整理運動 9 集合・反省・振り返り 10 次回予告 11 挨拶・片付け

第47回南部教育事務所管内（南部地区）中学校体育授業研究会 器械運動「マット」

第1分科会 「ICTの活用と体育の学習評価」

1 授業について

- ・見本の動画をもとに、ポイントを見つける。
→自分と見本の違いを見つける→課題→見本動画、自分の動画などを見比べながら課題解決
- ・特別な支援が必要な生徒への働きかけが難しい。
- ・評価シートの作成時間は意外と短いが作り変えに時間はかかる。ICT 支援員さんに協力してもらった。
- ＜ICT 活用のメリット＞
- ・作り変えが早い。
- ・焦点化できる。言葉や紙で伝えるよりも伝わる。
- ・授業の中で、全員の技能の見取りができないが、送られた映像で技能を見ることができる。
→妥当性、信頼性が高まる。
- ・自己評価と小テストを一致させると、自己評価の個人の感覚の差が明らかになる。
- ・Forms でのアンケートをエクセル集計（並び替え、色分け活用）することで、放課後のノートチェックの時間削減ができた。ノートよりも見取りやすい面もある。
- ＜ICT 活用のデメリット＞
- ・なんでも作って渡せばいいものではなく、精選して渡さないとスムーズに進まない。
- ・校庭では使えない。
- ・学習カードのように振り返りが子ども達の手元に残らない。動画のみ。
- ＜使った資料・注意している点＞
- ・学研 学校教育ネット
- ・タイムシフトカメラ（ペアで撮ると活動時間減ってしまう。これだと1人でもできる。）
- ・現2年生の上手な生徒を撮影した動画集→技をパーツ事にわけてポイントが確認できる。
- ・アンケート→タイピングの技能の差があるから、選択肢で選べるようにした。

2 研究協議

- ・お手本動画がたくさんあって参考になるが、躰きに対しての改善方法がわかる動画があると更にいいと思う。
- ・知識がないと、動画を活用できない、再現できない。知識をしっかりと身につけさせることが必要。
- ・ICT の活用が「先生が評価する為に」ではなく、「生徒の為に」という視点にすべき。

3 指導講評

- ・ICT の活用により、他者評価ができる。
- ・コロナの影響が様々な面に出ているが、できるものをできる範囲で取り組んでいくことが大事である。
- ・学習指導要領に沿った授業展開を。
 - ①3つの柱
 - ②系統性の重視（12年間で中学校は真ん中。）
 - ③共生の視点（男女、特別支援）で学ぶ環境作り。
- 単元によっては厳しいが、できることを探していくことが必要。
 - ・「共生」男女で力の差があるが、いかに一緒にやるかを考えることで、生涯を渡ってのスポーツライフにつながる。「する、観る、支える、知る」というスポーツの関わり方を指導していく。

第2分科会 「ICTの活用と資質・能力の育成」

1 授業について

※思考・判断・表現力を高めるために、ICT（ペーパーレス）を効果的に活用することを考えた。

- ・オリエンテーションを充実させるために
見本の動画で意識付け ②前転をいかにきれいにするか、ポイントを動画で説明。
- ・動画を撮影する
タイムシフトカメラ（やった後にすぐに見られる）のダウンロード
- ・課題解決練習方法動画の活用の仕方
時間を作って練習方法を全て見せ、選択させた。←この時間を大切にしたい。
- ・生徒自身の自己評価をタブレットで行うことで、教師側の評価がしやすくなる。

2 研究協議

＜技能＞

- ・より細かい言葉（技能ポイント）が出てくると技能向上につながる。
- ・技の選択肢が多かったため、ペア学習になっていないところがあり、対話的にならなかった場面も。
- ・2～3回は同じペアで活動していた。本時は2つの技だったので、その技の活動場所に移動したところでペアを組んだ。
- ・補助の仕方もICTで提示できるとよかった。
- ・動画を使っただけの練習がよかった。
- ・手本動画と比較する場面が少なかった。⇒自分の課題を把握しきれているのか。

＜評価＞

- ・動画をためていって、自分のどこが変わったことにより、より滑らかにできたのかに気づけるとよい。

3 指導講評

I 本時の授業を迎えるまでに

- ①情報の精査の必要性
- ②活用の仕方を学ぶ時間を作った。
- ③紙面を使わないと深まらないので、ICTとの併用が必要。
 - ・教師の適切な支援の必要性⇒能力の高い生徒はできるが、低い子には必ず支援する。
 - ・フォームでの自己評価⇒教師にとっては便利であるが、生徒は全部見るできない。（課題）
 - ・3年間で何を学ばせるのかを考え、計画を立てる必要性。

II ICTの活用

- ・生徒の実態に合わせて、ICT or アナログ、ICT + アナログを考える。
- ・生徒の活動が止まらないように、補助的手段として活用する。
- ・3つの資質能力の何を身につけさせるために活用するのかを明確にする。
- ・学習規律、力一杯体を動かす（30分は確保）本時は33分
- ・生徒が楽しいと思って終わることのできる授業を展開する。
- ・運動量を確保するための学習規律

III 学習指導要領にのっとった指導をして欲しい。

桶川市立加納中学校

単 元 名

- ・ 器械運動（跳び箱運動）
（マット運動）
（鉄棒運動）

授 業 者

増 田 義 裕
野 澤 麻里絵

研究協議会

「効果的に技能を高める授業の工夫」
～対話・ICT を活用して～

司 会 者

松 本 貴 好（桶川市立東中学校）
加 藤 大 地（鴻巣市立鴻巣北中学校）

司 会 者

齋 藤 穰（北本市立東中学校）
林 満美子（桶川市立西中学校）

指導・助言者

埼玉県教育局県立学校部保健体育課指導主事	新 井 知 章
埼玉県教育局南部教育事務所指導主事	熊 田 大 樹
桶川市教育委員会教育部学校支援課主幹兼指導主事	伊 藤 克 彦

《活動の様子》



桶川市立加納中学校

単 元 名	器械運動（マット運動・鉄棒運動・跳び箱運動）
指 導 者	増 田 義 裕 野 澤 麻里絵
単 元 目 標	○器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに基本劇な技を滑らかに行い、条件を変えた技や発展技、それらを組み合わせて行うことができるようにする。 【知識及び技能】 ○技などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えられるようにする。 【思考力・判断力・表現力】 ○器械運動に積極的に取り組むとともに、よい演技を認めようとする、仲間の学習を援助しようとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなど、健康・安全に気を配ったりすることができるようにする。 【学びに向かう力人間性等】
本時の目標	○ポイントやコツ、改善点を活かして、自身の実施する技を滑らかに行うことができるようにする。 【知識及び技能】
授 業 内 容	1 用具の準備・手洗い・消毒・集合 2 整列・挨拶・出席確認・健康観察 3 準備運動・補強運動・集団走 4 感覚づくりの運動 ・手押し車 風車 カエル倒立 壁倒立 補助3点倒立 ・補助倒立 回転運動 5 本時のねらい・課題の確認 6 種目別の基本技 7 種目別で自身の課題に応じた技の練習 8 整理運動・学習の振り返り 9 まとめ・次時の予告・挨拶

第47回 南部教育事務所管内（北部地区）中学校体育授業研究会

器械運動「マット運動・鉄棒運動・跳び箱運動」

第1 分科会

「体育授業における練習内容・方法の工夫 ～器械運動を中心に～」

1 授業について

- ・今回の授業は対話的な指導を意識して行った。
- ・学級の実態から、対話が苦手な生徒が多いことからコミュニケーションを高める授業を行った。
- ・指導要領を熟読して技能の「なめらかな動き」について考えた。
- ・ICT の活用はシステムの準備の状況からうまく使用することができなかった。

2 研究協議

- ・授業に対する規律や姿勢が素晴らしかった。
- ・3 種目から教師の目が届かないため、安全面を意識した方が良いのではないか。
- ・ペアやグループでの対話があったので良かった。ICT を有効的に使いたい。
- ・1 人1 台の PC を活用し、見本の動画を見せてから実際にやらせた方がよい。
- ・練習方法を細分化し、「乗る」「下りる」「またぐ」などの分解練習が必要だと感じた。
- ・技能のレベルが高かった。
- ・場の工夫がされていた。
- ・補助の仕方と技の上達を平行して指導する必要がある。
- ・評価は動画送信を使わせると良い。
- ・「自己のフィードバック」「他者へのフィードバック」「動画でのフィードバック」の3つを、バランスよく、効果的に取り入れていくと良い。
- ・大型テレビに技能を映すと指導しやすいとともに、生徒も分かりやすい。
- ・慣れの運動などで音楽を流して行くと、コミュニケーションを取りやすいような雰囲気が取れる。
- ・アドバイスカードを作成すると、生徒同士でのコミュニケーションが増えると思う。

3 指導講評

- ・教師から「この動きは何のためにやっているのか？」という質問をすることで自ら、動きのねらいが分かる。
- ・3 種目を2 人の教員では安全面に不安が出てしまった。
- ・学習指導要領を確認しながら何をポイントに指導するのかを明確に指導すること。
- ・単元の特性を理解して指導すること。また、生徒の実態を把握して指導すること。
- ・実態把握に対しては数値で示すと根拠となる現実的実態となる。
- ・単元の目指すゴールを生徒と教師で共有することが大切。
- ・ICT 機器の活用はとても大事であり、当たり前のように ICT 機器を使って、授業に参加できるようにしていく。
- ・ICT 機器は教師側の視点では、評価としてのフィードバックとして、生徒側の視点では、自分の動きを見るために効果的である。

第2分科会

「体育授業における練習環境の工夫 ～器械運動を中心に～」

1 授業について

- ・3種目を教師2名で実施した。1年次はマット運動と跳び箱運動を学習している。鉄棒は今回初めての実施である。運動量をしっかり確保した授業ができた。
- ・生徒同士の教え合い活動を意識させ、3種目を実施した。
- ・自分の活動がメインになってしまう生徒が見られ、アドバイスが少なめになってしまった。今後、見るポイントをもっと伝えた上で、ペア・グループ学習行う。
- ・3分間で技を変えていくことで、全員が動けるようになった。

2 研究協議

＜授業を見ての感想等＞

- ・学習規律がしっかりしており、十分な運動量の確保がされていた。
- ・マットに色のテープが貼ってあり、他の生徒と接触しないようにされていたり、すずらんテープが張ってあり、技を大きくさせたりするための工夫がされていた。
- ・3分ごとに技を変えながらローテーションで練習し、集中していた。もっと話し合い、教え合いができるとさらに良くなる。
- ・アドバイスは、技のポイントが理解していないと言えないため、ポイントを指導することが必要。
- ・今後、マットの発表に向けて、連続技にしていくには、場所の工夫が必要である。（ステージも使用してはどうか。）
- ・iPad が設置されていたが、生徒の使用が少なめに感じた。グループ内で、撮る人・見る人など役割を決めておくとういのではないか。
- ・2時間目と9時間目には技能評価をみとる時間であったため、映像を撮っておき、技の比較ができると良いのではないか。
- ・跳び箱と鉄棒にも、指導の工夫や取り組み方の工夫があるとよかったのではないか。（例：鉄棒でタオルを使うなど。）

＜各学校での実践を踏まえた取り組みの工夫＞

- ・3年の授業での、タブレット活用方法として、「自分の技を撮影 → 見本と見比べる → 授業内で練習 → 成果を最後に見る」という流れで取り組んでいる。
- ・技を滑らかにするために、練習時に見本を流しておき、見比べさせている。
- ・自分の技が行き詰ったら、ゼッケンを着けさせ、教師にもわかるようにし、タイミングよくアドバイスができるようにした。

3 指導講評

- ・学習規律がしっかりしており、運動量の確保ができています。
- ・運動量が多く、この中に学びがあることが大切である。
- ・技の系統表があり、つまりいたら表を見て確認することができる。
- ・安全面として、死角を作らないことが大切である。
- ・滑らかにできない生徒が見つかったら、「どうするか」、「何を与えればよいか」ここが勝負である。
- ・授業の中で「〇〇いいね！」と教師だけでなく仲間から褒めシャワーが出るとどんどん自信がついてくる。教師は教えるのではなく、導いていくことが大切である。
- ・学習指導要領をしっかり読み込んで、すべての生徒に教えること。
- ・技能を学ばせるときには、良い見本を生徒に見せているように、思考力・判断力・表現力も、よく教え合いをしている生徒を見本として見せられるとよい。
- ・3つの柱をそれぞれ教え、評価しなくてはいけない。よかったらほめることが大事である。

入間市立藤沢中学校

単 元 名

- ・球 技 (バドミントン)
- ・球 技 (アルティメット)

授 業 者

江 原 裕一朗
原 山 裕 輔
篠 原 恵 明

研究主題

「主体的に学ぶ生徒の育成」
～「個別最適な学習」と「協働的な学習」を軸に～

司 会 者

杉 野 琢 磨 (川越市立福原中学校)
小 暮 一 真 (三芳町立藤久保中学校)

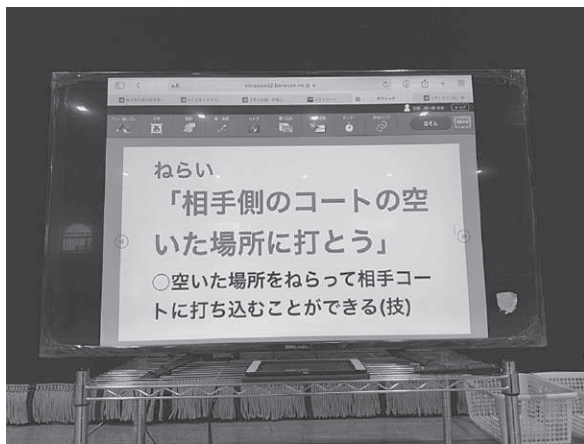
記 録 者

遠 藤 沙 織 (鶴ヶ島市立鶴ヶ島中学校)
栗 原 葵 (坂戸市立千代田中学校)

指導・助言者

埼玉県教育局県立学校部保健体育課指導主事	新 井 知 章
県立総合教育センター指導主事兼所員	野 中 拓 二
埼玉県教育局西部教育事務所教育支援担当指導主事	児 玉 直 也
入 間 市 教 育 委 員 会 指 導 主 事	高 嶋 裕 子

《 活 動 の 様 子 》



入間市立藤沢中学校

単 元 名	球 技 (バドミントン)																
指 導 者	新 井 知 章 高 嶋 裕 子																
単 元 目 標	(1) バドミントンの特性や技能の名称などについて理解するとともに、「シャトルを遠くへ飛ばすこと」「相手側の空いている場所をねらうこと」を意識した攻防をすることができるようにする。 【知識及び技能】 (2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組みを工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 【思考力・判断力・表現等】 (3) バドミントンに積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、仲間の学習を支援しようとするなどをして、健康・安全に気を配ったりすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】																
本時の目標	相手側のコートに空いた場所にシャトルを返すことができるようにする。【知識及び技能】																
授 業 内 容	<table border="0"> <tr> <td>1 用具の準備</td><td>8 ゲームⅡ</td></tr> <tr> <td>2 集合・挨拶・健康観察</td><td>9 ペアでの振り返り</td></tr> <tr> <td>3 タブレットの記入</td><td>10 集合・整理運動・健康観察</td></tr> <tr> <td>4 準備運動等</td><td>11 学習カードの記入</td></tr> <tr> <td>5 感覚づくりの運動</td><td>12 学習の振り返り、まとめ</td></tr> <tr> <td>・シャトルなげ</td><td>13 次時の予告</td></tr> <tr> <td>6 本時のねらいと内容の確認</td><td>14 挨拶・片付け</td></tr> <tr> <td>7 課題解決練習 ・グループ練習</td><td></td></tr> </table>	1 用具の準備	8 ゲームⅡ	2 集合・挨拶・健康観察	9 ペアでの振り返り	3 タブレットの記入	10 集合・整理運動・健康観察	4 準備運動等	11 学習カードの記入	5 感覚づくりの運動	12 学習の振り返り、まとめ	・シャトルなげ	13 次時の予告	6 本時のねらいと内容の確認	14 挨拶・片付け	7 課題解決練習 ・グループ練習	
1 用具の準備	8 ゲームⅡ																
2 集合・挨拶・健康観察	9 ペアでの振り返り																
3 タブレットの記入	10 集合・整理運動・健康観察																
4 準備運動等	11 学習カードの記入																
5 感覚づくりの運動	12 学習の振り返り、まとめ																
・シャトルなげ	13 次時の予告																
6 本時のねらいと内容の確認	14 挨拶・片付け																
7 課題解決練習 ・グループ練習																	

単 元 名	球 技（アルティメット）		
指 導 者	野 中 拓 二 児 玉 直 也		
単 元 目 標	(1) アルティメットの特性や技術の名称などについて理解するとともに、「ディスクを遠くへ投げること」「空いている場所を見つけ（生み出し） 走ること」を意識した攻防ができるようにする。 【知識及び技能】 (2) 自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えや仲間の考えを他者に伝えることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 (3) アルティメットに積極的に取り組むとともに、ルールを守ろうとすること、仲間の学習を支援しようとする こと、健康・安全に気を配ったりすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】		
本時の目標	各チームで取り組んだ課題改善のための練習の成果を試す。 【思考力・判断力・表現力等】		
授 業 内 容	1 用具の準備 2 集合・挨拶・健康観察 3 ねらいの確認 4 準備運動・W-up 5 ゲームの説明 6 ゲーム 7 集合・整理運動・健康観察 8 学習の振り返りとまとめ 9 次時の予告 10 挨拶・片付け		

第46回 西部教育事務所管内（入間地区）中学校体育授業研究会

第1 分科会

「球技（バドミントン）」

1 授業について

- ・チャイムと同時に終わることができなかった。
- ・課題解決練習がうまく生徒に伝わっていないと感じた。
- ・協働的な学び（ペアでどこをねらうか考える、見ていて赤の点を見て、空いている場所を考える）
赤：意図的に点が入った 青：相手のミスなど
- ・タブレットにしばられることなくスムーズに動くことができる。
- ・最後の整理運動、健康観察をすることができなかった。

2 研究協議

- ・課題を読み取ることができなかった。最初の練習はシングルス練習でも良いのではないか。
- ・コースをねらうこと。いつもは無理かもしれないので、チャンスの時にねらえるようにすると良いのではないか。
- ・主体的に学ぶことを中心に話し合った。先生も含めて冗談を言えるような雰囲気が良かった。基礎基本を多く入れていくと良いと思った。
- ・今の子ども達はリズムが良いので、音楽をかけながらステップ練習を実施しても良いと思う。
- ・1時間目の自分と8時間目の自分を比べて、自分なりの達成感を味わえると良い。
- ・上手な生徒のペアが「今度はこうするね」など考えて取り組んでいた。
- ・先生に名前を呼ばれると意識する。
- ・スタンプで落ちた所を確認できるのはとても良かった。相手チームと一緒に振り返るといい。
- ・オフリンクの活用が素晴らしい。

3 指導講評

- ・ICT の活用はこれからも発展していく。先生と生徒の関係がとても良い。先生が積み上げてきた成果。
- ・主体的な学びは、子どもがそこで実感して達成したときに大きく伸びる。子どもの中から「空いたスペースへ」「ぎりぎりをねらおう」など、言葉が出ていた。
- ・ゴール地点はどこか。ねらいがぶれていないか。
- ・先生方にも協働的な学びになった。
- ・子どもたちが前向きだった。タブレット活用がとてもよく使われている。6コートあり、タブレットもあるので、安全面も気をつけると良い。
- ・3つの話
 - ①学習指導要領の趣旨（学習指導要領の求める力が3つになったこと）
 - ②共通の視点（男女でできる学校づくりが大切）
 - ③ICT の活用（ただ使えばいいわけではないこと）

第2分科会

「球技（アルティメット）」

1 授業について

- ・自分たちで考えたメニューとゲームだった。
- ・ダイナミックなキャッチ、スローができるようになっていた。
- ・空き時間にもミニゲームをやっていたので、好きになってくれたのだと実感した。
- ・体育授業の制限（コロナ）があるため、体づくりの一環として始めたもの。
- ・マークマンを決める。マンツーマンでゲーム展開が良い。
- ・チーム分析シート＋動画 → ゲームの振り返り、フィードバック、課題を見つける。
- ・お手本動画も共有する。（四角パス、パス & ゴー）
→ 課題に合った練習方法を選ぶ。生徒たちの達成感が上がる。

2 研究協議

- | | |
|----|--|
| 質問 | 1年→2年に上がるときの注意点。どのようにして進めていくのか？ |
| 答え | 1年生ではコートの広さを変える。チーム人数を少なくする。
2年生では戦術的にゲームを進めていく。（選択になる） |

3 指導講評

- ・空間動作がとても良かった。可能性を感じる。
- ・アルティメットは単発ではなく、学校全体で取り組む必要がある。どんな生徒になって欲しいかを明確にする。
- ・パスがつながったときの喜び。
- ・生徒が個人で立てためあて、ねらいを教員が理解する。ICT ならではの動き。
- ・言葉がけがとても丁寧で優しさがある。
- ・良い授業（良い指導者、学び手、教材）。
- ・男女ともに喜ぶ→技能差がないからできること。
- ・遠ざける要因に対して、指導者が手立てをうっているか。
- ・団子型 → 空間をうまく利用できない。
- ・ディフェンス、オフェンス側で入れる場所を決めると解決できる。
- ・球技は技能差が出やすいが、アルティメットは出にくい。
- ・ディスクの滞空時間が長い → 作戦が立てやすい。
- ・生涯スポーツにつながる。
- ・球技の特性、仲間と一緒に競い合う → 味わわせたい。
- ・勝敗を気にする。ドリル練習でも回数などを競い合う → 喜び、伸びを実感できる。
- ・試合で勝敗を記録 → 勝つためにどうすればいいかを考えるようになる。
- ・教員が多く関わりとより生徒が楽しめる。
- ・ねらい、めあて → 個人＋各チームの課題。
- ・運動した結果をすぐにフィードバック → 深い学びにつながる。

東秩父村立東秩父中学校

単 元 名

・武 道（柔道）

授 業 者

谷 川 駿 人

研究協議会

司 会 者

橋 口 圭 輔 （川島町立西中学校）

記 録 者

坂 入 彩 加 （嵐山町立玉ノ岡中学校）

指導・助言者

埼玉県教育局県立学校部保健体育課指導主事

埼玉県教育局西部教育事務所指導主事

新 井 知 章

兒 玉 直 也

《活動の様子》



東 秩 父 村 立 東 秩 父 中 学 校

単 元 名	武 道（柔道）
指 導 者	長谷川 駿 人
単 元 目 標	(1) 柔道の特性や技の技能構造などについて理解するとともに、安全な受け身を身に付け、相手の動きに応じた基本動作や動きながらの技の使い方を覚え、得意技をかけられるようにする。 【知識及び技能】 (2) 自己の課題を発見し、合理的な運動の取り組み方を工夫するとともに、評価活動を通して自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 【思考力，判断力，表現力等】 (3) 柔道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方と学習のきまりを守り、礼儀正しい態度で学習したり、健康や安全に気を配ったりすることができるようにする。 【学びに向かう力，人間性等】
本時の目標	体落としの課題や出来映えを伝えよう。体落としの課題や出来映えを伝えよう。 【思考力，判断力，表現力等】
授 業 内 容	1 手指消毒・集合・挨拶・健康観察 2 前時の振り返り 3 準備運動・補強運動（馬跳びくぐり・手押し車） 4 感覚づくりの運動 (1) 回転運動（前転・開脚前転）、足跳び越し（すり足） (2) 受け身（横受け身）・受け身の練習第4～8（二人組）段階 5 技能 6 本時のねらい・学習内容の確認 7 課題練習 8 アドバイスタイム 9 成果の確認 10 整理運動 11 学習カードの記入・振り返り・まとめ 12 次時の連絡 13 あいさつ

第47回 比企地区中学校体育授業研究会

「武道」(柔道)

1 授業について

- ・段階的な指導を心がけた。
- ・時間の目安を伝えたほうが良かった。
- ・受身を上手に取れるように指導を行った。
- ・生徒同士でアドバイスをを行っていたが、より分かりやすい伝え方について指導したい。

2 研究協議

柱 思考力・判断力・表現力等を効果的に身に付けるために

- ・1時間の中でどのように指導し、どの場面で評価するか。
- ・努力を要すると判断される生徒への指導の手立て。
- ・今回の評価計画について、4時間目と5時間目の内容を逆にした方が効果的ではないか。
- ・1年で投げ技、2年で固め技、3年で試合というながれが出来ている。
- ・ICTの課題練習ではなく、アドバイスカードを使用した。
- ・習得した技能を実践できるように試合を取り入れていく。

3 指導・講評

- ・一般的特性が大切。生徒にとってはこの運動領域は他の競技では味わえないことが記載されている。
- ・柔道は、相手の力を捻じ伏せるというイメージを持つ生徒が多い。
- ・ABCの評価の観点が統一されているため、得意な生徒から苦手な生徒へもアドバイスができる。
- ・学び合いの環境ができていた。
- ・今日の授業で何を指導したのか。評価場面の具体化。
- ・男女の考え方の違いを上手に利用する。
- ・ICTの活用について
 - 教師の視点 → 個々のつまづきを把握できる。課題を個別に指導できる。
 - 生徒の視点 → 個々、一斉学習、遠隔。資質・能力をどの場面で使用するのか。
 - ICTを活用して運動量を増やす。
- ・運動好きな生徒を増やしてほしい。
- ・生徒の実態を把握し数値化。→アンケートやICTの活用。
- ・教員の指示が明確でテンポがよかった。
- ・目指す生徒像を教師と生徒が共有する。→ズレが生じないようにする。

秩父市立尾田蒔中学校

単 元 名

・球 技（バドミントン） 第2学年

授 業 者

関 根 壮 登

研究協議会

研究主題

「主体的に自らの学びを創出する生徒の育成」

～ICT 機器の効果的な活用方法の工夫～

研究の柱

・「ICT 機器の効果的な活用方法について」

司 会 者

・室 岡 祐 貴 （長瀬町立長瀬中学校）

司 会 者

・大 野 彩 （秩父市立高篠中学校）

指導・助言者

埼玉県教育局県立学校部保健体育課指導主事

北部教育事務所秩父支所指導主事

秩父市教育委員会指導主事兼主幹

新 井 智 章

橋 本 修 一

古 林 学

《活動の様子》



秩父市立尾田蒔中学校

単 元 名	球 技 (バドミントン)
指 導 者	関 根 壮 登
単 元 目 標	(1) バドミントンの特性や技能の名称などについて理解するとともに、シャトルや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防ができるようにする。 【知識及び技能】 (2) 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 (3) バドミントンの授業に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、仲間の学習を援助しようとするなどをして、健康・安全に気を配ったりすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】
本時の目標	相手側のコートの空いている場所にシャトルを返すことができる。 【知識及び技能】
授 業 内 容	1 準備 2 集合・整列・出席確認・挨拶 3 準備運動（チャイニーズステップ・フットワーク） 4 感覚づくりの運動 ・基礎練習① ・基礎練習② 5 本時のねらいと内容の確認 6 ヘアピンゲーム 7 ハーフコートゲーム 8 集合・健康観察 9 整理運動 10 学習カード記入（タブレット） 11 学習の振り返り（画面に映す） 12 まとめ 13 次時の予告 14 挨拶・片付け

令和4年度北部教育事務所秩父支所管内 第47回中学校体育授業研究会 「球技（バドミントン）」

1 授業について

- ・技能は1年生なので、まだ、未熟な部分がある。
- ・ICTを使って振り返りを書かせてみた。回を重ねるごとに振り返りが書けるようになってきた。内容が変わってきている。適切な時間配分を知りたい。
- ・特別支援学級の生徒がいたが、周りがよく声をかけていた。

2. 研究協議

○『ICT機器の効果的な活用方法の工夫』の研究協議題を6グループに分かれ、本授業の『良かった点』『改善点やもう少し工夫できる点』『各学校でのICT機器の効果的な活用の実践例や活用の工夫例』『ワークシートの評価の仕方の工夫』を色分けし付箋にまとめグループ協議を行った。その後、話し合いの内容をグループごとにまとめ、代表者が発表した。

【本授業で良かった点】

- ・授業の雰囲気、テンポが良かった。
- ・何のために何をやるのかが明確だった。
- ・振り返りを客観的に行っていた。具体的な言葉で振り返ることができていた。
- ・生徒1人1人の役割が明確だった。
- ・教具が工夫されていた。
- ・学習規律が確立されていたため、スムーズに流れていた。

【改善点やもう少し工夫できる点】

- ・試合中の生徒同士のアドバイスがあるとよかった。
- ・ねらいにせまる資料は常に見ることができるように掲示する。
- ・導入の活動は実際の試合のどの場面で活用できるのか。（ヘアピンも同様）
- ・テールヒットのスイングまでの入り方。ハーフコートゲームのコート内での得点分け。良いプレーを生徒同士でフィードバックできると良い。

【各学校でのICT機器の効果的な活用の実践例や活用の工夫例】

- ・提出物に活かしている。動画を撮らせて提出など。
- ・平面で撮るのではなく、上から撮ると課題を見つけやすい。
- ・アンケートの記入など。
- ・動きのイメージ作りに使っている。

【ワークシートの評価の仕方の工夫】

※評価の仕方を聞いたかったが、ワークシートの記入の仕方の工夫を話し合っている班が多かったため、その内容を記載。

- ・必要な時のみ感想記入をしている。（思考を見る時間のみ）
- ・枠の大きさを変える。
- ・振り返りのキーワードを意識させる。
- ・自己評価（A・B・C）+文章で振り返りを行う。そうすることで、単元全体を通した振り返りにつながる。

3. 指導講評

○ICTの活用・推進のために

- ・①ためしてみる ②継続する ③失敗を共有する

○体育に限らず、いろいろな場面でICTに触れる→生徒自身がICTを使いたい場面を見つけられるようになる。

○生徒の振り返りを価値付けしてあげる→次時の意欲へつながる。

○指導内容の明確化

- ・教えていないことはできるようにならない。生徒ができるようにならないことに対して、自分の指導の仕方は…?と確認して欲しい。教えたことはしっかりと評価をする。
- ・指導と評価の立て方が素晴らしい。ねらいと評価の整合性を図ること。1時間、単元、1年間、3年間を見通して考え指導していくこと。小学校の先生と連携をとっていくこと。スタートとゴールを定める。指導要領に沿って教えていく。
- ・単元を通して積み重ねを感じるようなものを取り入れる。

○運動やスポーツの多様な関わり方と関連づけた楽しい授業

- ・男女共習をよく取り入れている。男女がよく関わっていた。男女の意識、チームでの達成感を感じさせられるような活動を取り入れる。
- ・技能だけをあげていくのではなく、思考・判断の質を上げていく授業を目指す。

○事故防止に向けた取り組みと教師の関わり方

- ・授業規律、用具の点検をする。しめるところはしっかりしめる。
- ・ティーチングではなく、コーチングの意識をする。子どもに気付かせる声かけをする。全ての活動に教師の言葉が入るわけではなく、生徒同士の話し合いがある。（ICTの活用など）
- ・教師が範を示す。教わりたいという声かけをする。
- ・他校との横の繋がりを大切にしたい。地域の中で連携を図ること。
- ・ICTはまず自分からやってみる！

- 学習指導要領の変更に伴い、授業もかわっていかなければいけない。3つの柱が明確に示された。
生徒の実態をみて単元計画を作っていく。3年間を見通して、その学年で教えるべきことを入れる。
単元計画は、3つの資質、能力をバランス良く指導する。
- 12年間で意識した計画を立てること。継続性を持って指導する。
- 男女共習は、体育だけじゃない。日頃の生活から他の先生と共有する。
豊かなスポーツライフの実現へつなげる。

本庄市立本庄西中学校

単 元 名

- ・球 技（サッカー）第1学年
- ・球 技（バスケットボール）第1学年

授 業 者

大久保 智 司
小 林 良

研究協議会

- ・第1分科会 球 技 サッカー
- ・第2分科会 球 技 バスケットボール

生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する資質・能力の育成
～運動の特性や魅力に触れる喜びや楽しさを味わわせるための

指導方法の工夫～

司 会 者

- ・第1分科会 鈴 木 裕 也（本庄市立児玉中学校）
- ・第2分科会 伊 藤 真 弥（上里町立上里北中学校）

指導・助言者

本 庄 市 教 育 委 員 会 教 育 長
埼玉県教育局県立学校部保健体育課指導主事
埼玉県教育局北部教育事務所指導主事
埼玉県立総合教育センター指導主事兼所員
本庄市教育委員会学校教育課指導主事

下野戸 陽 子
新 井 知 章
横 山 祐 樹
野 中 拓 二
武 藤 知 啓

《活動の様子》



本 庄 市 立 本 庄 西 中 学 校

単 元 名	球 技（サッカー）
指 導 者	大久保 智司
単 元 目 標	(1) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、サッカーの特性や技術の名称などについて理解するとともに、ボールの操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができるようにする。 【知識及び技能】 (2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力】 (3) サッカーに積極的に取り組むとともに、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、健康・安全に気を配ったりすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】
本時の目標	マークされていない味方にパスを出すことができる。 【知識及び技能】
授 業 内 容	1 用具の準備 2 集合・挨拶・出席確認・健康観察 3 準備運動 4 感覚づくりの運動 5 本時のねらいと学習内容の確認 6 動き方の確認 7 アダプテーションゲーム 8 集合・健康観察・整理運動 9 学習のまとめと振り返り 10 次時の予告 11 挨拶、片付け

単 元 名	球 技（バスケットボール）
指 導 者	小 林 良
単 元 目 標	(1) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、バスケットボールの特性や技能の名称などについて理解するとともに、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができるようにする。 【知識及び技能】 (2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力】 (3) バスケットボールに積極的に取り組むとともに、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、健康・安全に気を配ったりすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】
本時の目標	マークされていない味方にパスを出すことができる。 【知識及び技能】
授 業 内 容	1 用具の準備 2 集合・挨拶・出席確認・健康観察 3 準備運動 4 感覚づくりの運動 5 本時のねらいと学習内容の確認 6 動き方の確認 7 アダプテーションゲーム 8 集合・健康観察・整理運動 9 学習のまとめと振り返り 10 次時の予告 11 挨拶、片付け

第47回児玉郡・本庄地区中学校体育授業研究会

第1分科会

「球技（サッカー）」

1 授業について

- ・今年度から「共生」をテーマに男女共修を行っている。
- ・運動が苦手な生徒も楽しめる、好きになるような授業を展開したい。しかし、今回は逆に物足りない生徒もいたかもしれない。
- ・時間配分がうまくいかず、3本目のゲームができない生徒もいた。
- ・評価Cの生徒に対する声掛けを多めに行った。
- ・外でのICTの使い方について
→外では撮影がメイン。前時に体育館で動画を視聴させた。

2 研究協議

『運動の特性や魅力に触れる喜びや楽しさを味わわせるための指導方法の工夫』

(1) 授業を参観して

A班：授業の雰囲気や生徒の様子が良かった。準備体操を音楽にのせて行うのがよかった。感覚づくりが6種類あることで多くの要素にアプローチでき、体力向上にもつながっていた。2対1の裏を取る練習が、パスの出し手の技能次第になっていた。感覚づくりではボールを足で扱う場面を増やしてもいいと思う。

B班：運動が苦手な生徒も安心できる環境が整っていた。生徒が勝つためだけを意識して、アダプテーションを設定していた。ねらいを達成するための条件を考えさせるとより良いかもしれない。パスゲームは攻める方向を設定した方がやりやすいと思う。コートの大さを「ねらいや実態」に合わせて変えていく必要がある。

3 指導講評

- ・班ごとに体操を行うことで、生徒の主体性も向上し教員も自由に指導ができる。
- ・生徒がのびのびとしていた。
- ・運動量の確保も出来ていた。
- ・感覚づくり運動 → 主運動がスムーズに繋がっていた。
- ・コートの大さや人数を工夫することで、感覚づくり運動がさらに生きてくる。
- ・アダプテーションのルールを選択の理由を生徒が言語化（説明）できると更に深い学びに繋がる。
- ・生徒がやりたいと思える、伸びが実感できる、前は〇〇だったと思える、導入、ねらいや課題、振り返りを行えるといい。
- ・振り返りで、変容を見取ってほしい。
- ・ICTの使用では、運動量を減らさない、戦術的理解を深めることを意識してほしい。
- ・教員は、生徒がどう困っているかを発見し、指導する。
- ・指導と評価の一体化、ゴールを決めてから授業を計画する。
- ・昨年度のダンスの内容を準備体操に引き継いでいて、去年の研究が生かされていると感じた。動きの指示も明確であった。
- ・運動の特性を大切に授業だった。（得点を取り合うこと、足でボールを扱う難しさ、など）
- ・3年間を見通した計画がされている。（生徒の目指す姿が明確）
- ・ねらいに応じて、どういうゲーム（ルールやコートの大さ）にするかが大切。
- ・感覚づくりの運動では、初心者でも必要最低限の技能を身につけさせたい。（ゲームに繋がるような動きを取り入れる。「何のためにやるか」を意識させる。）
- ・今回の授業の感覚づくり運動では、もっと足でボールを扱う場面を増やすことも必要かもしれない。
- ・学習内容を明確化するために、「ねらいに対して個人のねらい」を設定しても良いのではないかな。

第2分科会

「球技（バスケットボール）」

1 授業について

- ・現在、本庄西中学校の保健体育の授業では「共生」をテーマに行っている。これは運動が得意な子と苦手な子の二極化が激しい今日において、どの子も一緒に楽しみながら体力向上を図るためである。運動好きを増やすため、試行錯誤しながら授業を行っている。
この日の授業は、昨日まで学級閉鎖だった学級ということもあり、流れを忘れてしまっているような生徒もいた。
- ・導入のウォーミングアップで行ったダンスはどの単元でも行っているのか。
→コロナ禍で声を出すことに制限があるので、全単元で行っている。

2 研究協議

『運動の特性や魅力に触れる喜びや楽しさを味わわせるための指導方法の工夫』

(1) 授業を参観して

- A班：ウォーミングアップから運動量が多くてよかった。感覚づくり運動で行った4つの動きもよく考えられていた。
男女共修で行っていたことで、コートを広く使えていてよかった。
- B班：運動量が多くてよかった。タブレットに活動の流れが入っていたので、生徒が理解しやすかった。本時はパスに特化した内容なのでよかったが、ゴール型なので最後シュートまでもっていくような流れでもよかったのかも。

3 指導講評

- ・生徒の主体的な学びについて
→埼玉県の運動好きが少ないという課題を解決していくためにも、「共生」という目標はよい。
- ・アダプテーションゲームについて
→全員が楽しみながら行えるように、自分たちで制限を選択して技能の獲得を目指すこのゲームは、主体性が増すのでよい取り組みである。ただし、アダプテーションゲームが目的になってはいけない。
- ・ICTの活用について
→オクリンクで動画などを送るのはいい。動画・写真を撮ることに集中させないように気をつけること。
- ・「共生」、「男女共修」は体育だけでなく、学校全体で考えてデザインしていくべきである。
- ・授業アンケートで生徒の実態を知り、種目の特性を理解したら子供たちと授業のゴールを共有するとよい。
- ・知識・技能を教え→課題を考えさせ→習った知識・技能を使って解決していくような流れで単元計画を考える。「楽しい」を通してねらいを達成できるように。

熊谷市立別府中学校

単 元 名

- ・陸上競技（長距離走）

授 業 者

辻 憲 吾
古 賀 野乃子

研究協議会

- ・分科会 協議の柱
 - ① 研究主題を踏まえた授業の振り返り
 - ② 参会者より一言

司 会 者

- ・津久井 大 貴（熊谷市立大原中学校）

指導・助言者

埼玉県教育局県立学校部保健体育課指導主事
埼玉県教育局北部教育事務所指導主事
熊谷市教育委員会学校教育課指導主事

新 井 知 章
横 山 祐 樹
大 嶋 一 寿

《活動の様子》



熊谷市立別府中学校

単 元 名	陸上競技（長距離走）
指 導 者	辻 憲 吾 古 賀 野乃子
単 元 目 標	(1) 長距離走の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解できるようにするとともに、自己のスピードを維持できるフォームでペースを守りながら、一定の距離を走り通すことができるようにする。 【知識及び技能】 (2) 動きなどの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 【思考力・判断力・表現力等】 (3) 長距離走の学習に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、健康・安全に気を配ったりすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】
本時の目標	チームの目標に合った一定のペースで、最後まで走りきろう 【知識及び技能】
授 業 内 容	1 用具の準備 2 集合・整列・挨拶・出席確認・健康観察 3 準備運動 4 感覚づくりの運動 5 本時のねらいと内容の確認 6 ペース走 7 クーリングダウン 8 整理運動・話し合い 9 学習の振り返り・まとめ 10 次時の予告 11 挨拶・片付け

第47回 北部教育事務所管内（大里地区） 中学校体育授業研究会

第1 分科会

「陸上競技（長距離走）」

(1) 運動の特性に触れ、一人一人の技能を高める指導の工夫

(2) 楽しい体育授業の実践に向けて

1 授業について（授業者の反省・質問）

- ・長距離走への苦手意識をできるだけなくしていく授業を行いたい。
- ・個人技能別のグループにすることで、仲間と学び合う意識を高めていきたい。
- ・ICTを活用し積極的に取り入れていきたい。
- ・個人技能を高めるための工夫とは？
→個人だけで行くと、孤独感を感じるため、グループ活動を行い、意欲を高めることが技能向上に繋がると考えた。
- ・80～90％のペース設定の理由は？ →タイム測定で技能向上に繋がると考えた。
- ・11時間という授業数はねらいがあったのか？ 苦手な子はつらいのでは？
→技能等の伸びを見取るために、十分な時間が必要であると考えた。

2 研究協議（本授業を踏まえながら）

○授業の振り返り（良かった点・改善点・指導案の検討等）

- ・授業の雰囲気がとても良かった。先生方の声掛けや学習規律が確立されている。
- ・運動量が多く確保できていて、自主的な生徒が多くみられた。
- ・グループで授業を行ったことで、意欲が高まっているように感じた。
- ・慣れの運動では、工夫されていて生徒が失敗を恐れずに取り組んでいた。
- ・1本目から2本目のインターバルが短く感じた。2本目でチームを変えても良い。
- ・強度設定や褒める言葉がけをもっと増やせると良い。
- ・チェックランが競争になっていた。ねらいを明確にして取り組ませると良い。
- ・BGMの使い分けの工夫をすると良い。

3 指導講評

- ・学習規律や集中力がとても高く、一人一人が自信をもって取り組める授業であった。
- ・ペース走を生徒自身が考えて自分たちで選択していた。なぜそれを選択したのかを明確にしていた。
- ・T1とT2の共通理解ができていた。授業中お互いに確認し合いながら授業を進めていた。
- ・学習計画を立てるときに、技能だけがねらいにならないように計画を立てていく必要がある。
- ・「チームの力を借りる」→個別最適化、深い学びにつながっていく。
- ・生徒が主体的に取り組めるように手立てを複数考えておく必要がある。
- ・1本目から2本目を行う前に心拍数を落ち着かせてから行うと良い。科学的根拠をもって実感させられると良い。
- ・弾力的な指導を通じて、生徒の実感などに合わせて長距離走の中でも指導法を考えていく。
- ・成功するためにはどうしたらいいのかを生徒自ら考えられるようになっていくと良い。
- ・「次も頑張りたい！」という意欲をもつためにICTを活用して記録をためておくとう良い。
- ・規律がしっかりしており、安全面においても配慮してあった。運動量の確保がしっかりとされていた。
- ・学習指導要領の趣旨を踏まえた計画を立てていく。育成を目指す3つの柱をもとに指導内容が明確化された。
- ・小学校～高等学校（12年間）の指導内容の明確化、系統性を持った内容
→中学校3年間だけではなく、小学校～高等学校を見据えて中学校で何を教えるのかを考える。生涯スポーツに繋がるように。
- ・共生の視点を持つ。男女共習
- ・運動の特性を理解し、生徒にとっての喜び、マイナスな面が何かを把握する。
- ・生徒の実態の把握→小学校の段階で何を教わってきたのか？何ができるのか？をアンケート等を利用し数値化すると良い。
- ・授業のゴール像をイメージする。生徒がどうなってほしいかを考える。（技能だけではなく、思考・判断・表現等も共有する。）
- ・1単元だけではなく、3年間を見通して考えることも大切。3年間でバランスをとれると良い。
- ・豊かなスポーツライフに向けて、男女共習など体力の違いを踏まえて行うこと。
- ・体育以外の授業でも、共生の視点をもっていけると良い。
- ・ICTの活用はこれから当たり前。情報活用能力を高めていく。
- ・一斉指導、個別指導、協同学習等をどの視点のために使うのかははっきりさせる。
- ・教科横断的な大きな視点を持つ。（他教科から取り入れられるものもある）

羽生市立西中学校

単 元 名

・陸上競技（長距離走）

授 業 者

新 井 和 明

大 塚 友 美

研究主題

「主体的に学び、運動の楽しさや喜びを味わえる体育授業の実践」

～キーコンピテンシーの3つの柱を意識した授業～

指導・助言者

埼玉県教育局県立学校部保健体育課指導主事

新 井 知 章

埼玉県教育局東部教育事務所主任指導主事

野見山 伸 一

羽生市教育委員会学校教育課指導主事兼主幹

増 村 歩

《活動の様子》



羽生市立西中学校

単 元 名	陸上競技（長距離走）
指 導 者	新 井 和 明（T1） 大 塚 友 美（T2）
単 元 目 標	○長距離走の技術の名称や行い方、運動観察の方法を理解するとともに、自己に適したペースを守りながら走ることができるようにする。 【知識及び技能】 ○動きなどの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝え合うことができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 ○長距離走に積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助するなど、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認め、仲間の健康や安全にも留意し、記録に挑戦できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】
本 時 の ね ら い	設定したペースで走るために、動きのポイントや課題を互いに伝えることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】
授 業 内 容	1 集合、整列（グループごとに） 挨拶・出席確認（健康観察）・心拍数の測定（安静時）10秒×6倍 2 準備運動（動きづくり） 心拍数の測定（準備運動後）10秒×6倍 3 本時のねらいと学習内容の確認 4 第2回駅伝大会 ・グループ別に作戦を考える ・1～4区による駅伝大会（1人1000m） 5 心拍数の測定（主運動後）10秒×6倍 主観的運動強度の確認 6 整理運動 7 集合、整列（グループごとに） 8 健康観察 9 学習の振り返り ・ペア同士、チームでの伝え合ったことを確認し振り返りを行う ・他者の考えを聞き、学習を深める 10 まとめ 11 次時の予告 12 挨拶、解散、片付け

令和4年度 東部教育事務所管内（北埼玉地区）第47回中学校体育授業研究会

1 授業について

- ・長距離走の授業では、フォームやペースを重視して、そこからペースを上げるように進めた。
 - ・グループで話し合い、楽しい雰囲気で行わせ、チームの力も高めていった。
 - ・コロナの影響でなかなか運動できなかった実態がある。短い距離にしてペースをつかませた。
 - ・タイマーは大きく見やすいが、できればひとり一個のストップウォッチを持たせたい。
 - ・タイムも大切だが、仲間同士で今日の「ねらい」を意識させたかった。時間がなかったが、生徒の声かけはあった。
 - ・ペースやフォームを意識して進めたが、天候に左右されたり、大会で人が揃わなかったりして思うように授業ができていなかった。本日初めて4人揃って走れた。
 - ・4人揃って走れた喜びの方が大きく、最後の反省でも、「ねらい」からそれていた。そこをもう少しうまく教員側から助言できれば「ねらい」に近づけたと思う。
 - ・4人で走るところに主体性があり、子供達がとてもいい動きをしていた。
 - ・4人の編成の仕方、当日欠席者が場合はどうするのか。
 - ・チーム編成について → 最初に試しの1000mを走り、記録を出す。記録を元に班編成をする。
- 人間関係や男女比も考慮する。

2 研究協議

- ・コースをショートカットしていた生徒がいた。カラーコーンなどで対処するのはどうか。
- ・本物の箱根駅伝を意識させ、校長先生にお願いして雷管で出発させたりすると、より本格的になり、楽しく行うという点で工夫できたのではないかな。
- ・W-UPでは、専門性があり、とても良かった。アップテンポの曲を使うことも効果的ではないかな。
- ・長距離走の授業では、見学者が多くなる学校がある。目標を持たせたり、点数付けしたり、駅伝Tシャツを作ったりと、学年を超えて取り組み、工夫している学校がある。
- ・授業については、タイムや順位にこだわっていた様子が伺えたので、違うトレーニングなどで「ねらい」に沿ったものができたのではないかな。
- ・走るルートだったり、班の編成だったり、先生方の工夫が見られた。
- ・「ねらい」である具体的なアドバイスよりも、「がんばれ」という声かけが多かった。
- ・毎時間7分間走を行う、結果を可視化するなど、工夫をしている学校がある。
- ・本時の「ねらい」が具体的で、生徒にもわかりやすくてよかった。
- ・コースが工夫されていてよかった。景色が変わるので、生徒が飽きない。
- ・男女一緒にやることで、一緒に楽しもうという雰囲気が出ていたことがよかった。

3 指導・講評

- ・生涯スポーツとして親しむこと。手軽にできることが「走ること」である。
- ・長距離走 → つらい、苦しい → タイムを迫られている。
大人の健康のため → 手軽にできる運動 → 自分のペース → 好きな音楽が聴ける。
- ・体づくり運動と交わらないように気を付ける。
- ・心拍数を基準に運動強度を考えさせることは大切。
- ・正しい脈の測り方を指導させる。（親指ではない、細い指で測ると良い）
- ・場所を広く使うことや、体を大きく使わせたり、スタートの位置をずらしたりするとよい。
- ・本時の「ねらい」を先生方が明確に伝えていてよかった。
- ・具体的な言葉がけにするには → ホワイトボードの後ろに引用できる言葉がたくさんあった。
- ・今までの学習で積み重ねて、自然と言えるようになるといい。
- ・単元の前半に撮った自分の動きと、後半に撮ったものを横に並べてみるのもよい。ICTを効果的に活用して欲しい。
- ・研究協議の意見交換が活発であり、東部地区の強みになっている。ぜひ、続けて欲しい。
- ・学習指導要領の変わったところをふまえて、授業を変えていかなければならない。意識も変えていかなければならない。
- ・3つの柱になり、具体的に教えることが書いてある。最終的に身につけさせることを忘れないように。
- ・12年間を見据えて、継続的に指導をする。最終的には高校卒業後も、運動やスポーツに多様な関わりをもてるような展開をしていくことが大切である。
- ・共生の視点をふまえた内容改善が必要である。
- ・目指すゴール像をイメージする。先生が描くゴールと、子ども達が描くゴールが一致するように。
- ・はじめにゴールのイメージをつける。逆算していくと、単元計画が作りやすい。

蓮田市立蓮田中学校

単 元 名

- ・ 球 技 (バスケットボール)
- ・ 球 技 (サッカー)

授 業 者

上 村 あき子
岩 田 健 吾

研究協議会

- ・ 第1分科会 [「球技」におけるICTの効果的な活用 (バスケットボール)]
- ・ 第2分科会 [「球技」における基礎的・基本的な技能の定着 (サッカー)]

司 会 者

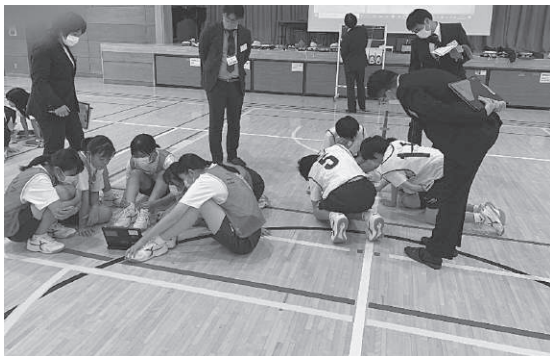
- ・ 第1分科会 阿 部 浩 也 (春日部市立豊野中学校)
- ・ 第2分科会 萩根澤 卓 郎 (宮代町立須加中学校)

指導・助言者

埼玉県教育局県立学校部保健体育課指導主事
埼玉県教育局東部教育事務所主任指導主事
蓮 田 市 教 育 委 員 会 指 導 主 事

新 井 知 章
野見山 伸 一
鈴 木 裕 之

《活動の様子》



蓮田市立蓮田中学校

単 元 名	球 技 (バスケットボール)
指 導 者	上 村 あき子
単 元 目 標	(1) バスケットボールの特性や技能の名称などについて理解するとともに、ボール操作を身に付け、空間へ走りこむ動きからの攻防ができるようにする。 【知識及び技能】 (2) 仲間やチームの具体的な課題に気がつき、解決に向けてアドバイスができる。 【思考力、判断力、表現力等】 (3) 学習に積極的に取り組み、ルールを守り、仲間と協力して学習ができ、健康・安全に気を配ったりすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】
本時の目標	動画を活用し、チームの課題をみつけることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】
授 業 内 容	1 出席確認・挨拶・健康観察 2 ランニング・準備体操・補強運動 3 本時のねらい確認 4 チーム別練習 5 ゲーム（4対4） ・ 3分×3本 ・ チーム総当たりのリーグ戦 6 ゲームの振り返り 7 次回の課題（作戦）を考える 8 整理運動・健康観察 9 学習カードの記入と振り返り 10 まとめ・次時の連絡 11 挨拶・片づけ

単 元 名	球 技 (サッカー)
指 導 者	岩 田 健 吾
単 元 目 標	(1) サッカーの特性や技能の名称などについて理解するとともに、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができるようにする。【知識及び技能】 (2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】 (3) サッカーの学習に積極的に取り組むとともに、フェアなプレーを守ろうとすること、作戦などの話合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレーを認めようとする、仲間の学習を援助しようとする、健康・安全に気を配ったりすることができるようにする。【学びに向かう力、人間性等】
本時の目標	掲示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えることができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】
授 業 内 容	導入 (14分) 1 集合・用具の準備 2 整列・挨拶・出席確認・健康観察 3 準備運動・感覚づくりの運動 ・鬼ごっこ ・ドリブル ・ドリルゲーム (的当て) 展開 (28分) 4 本時のねらいと内容の確認 5 チームで動きの確認 ・作戦ボードを活用してチームのやりたい動きの確認をする。 6 6 ゴールゲーム ・相手ゴール前で待ち伏せはしない ・ゴールに入ったら2点。コーンゴールに入ったら1点。 ・5分×3 ・4対4 ・休んでいるチームがタブレットでゲームを撮影する。 ・自チームからゲーム分析担当者を1名出す。 7 ふりかえりタイム ・チームごとに良かったところと課題を整理する。 ・見つけたチームの良さや課題、次に活かしたいことを共有する。 まとめ (8分) 8 集合・健康観察・整理運動 9 学習カードの記入・学習のふりかえり 10 まとめ・次時の予告 11 片付け・挨拶

第1分科会

1 授業について

- ・生徒の良い動きを、大型スクリーンを活用して流した。
- ・WSの動画がタブレットに入っているので、繰り返し流せるようにしている。
- ・ICTの活用と運動量の確保が難しい。
- ・撮影者はゴールに注目しがちで、ただ見ているだけになってしまっている。動画の撮り方に難しさを感じた。倍速機能があると良いと思った。
- ・練習の始めは、全体で練習→グループ練習→リーダーを中心に安全面を配慮しつつグループ練習とした。5秒ルールを取り入れたら、ボールに群れることはなくなった。

2 研究協議

- ・スクリーンを活用することで、視覚的に見ることで良かった。
- ・試合の撮影について、上から全体を撮ると見えづらい。横からやステージから撮り、撮影の対象者を絞ると良い。
- ・4対4の少人数で良かった。3対3のハーフコートでやるのも有効的である。
- ・スペース、動きのパターンを教える、前時の良い動きのパターンをスクリーンに映し出しておくが良い。
- ・スポーツを支える、知るができていた。
- ・動画の中から課題を見つけるのは難しい。
- ・ミライシードオクリンクを活用すると良い。

3 指導講評

- ・子供たちが素直でよく話を聞いていた。先生との信頼関係が良かった。
- ・チームの課題、動画を見て気づかせるのはわかりやすい。しかし、課題を見つけたら、改善までする。
- ・課題を予測して、ポイントを絞った方がよかった。
- ・「空いている空間に走り込む」という課題が生徒から出てくるとよかった。
- ・学習指導要領について、①3つの柱になっている。②指導内容が小～高の12年間の系統性が細くなっている。するー見るー支えるなどの、スポーツライフが楽しくなるように学ばせる。
- ・単元計画をつくるポイントについて、魅力を知ること、生徒の実態を把握すること、授業の最後にどうしたいか、各観点のゴール像を逆算していく。
- ・運動量の確保は、時間によって変動するのは仕方ないので、運動量はトータルで見ていく。
- ・共生の視点で授業をつくる。
- ・ICTの活用について、活用であって、「使」ではない。使えばいいというわけではなく、教師の視点、生徒側の視点で、どの場面で使うのか、一斉指導なのか、個別指導なのかで使い分ける。
- ・情報活用処理が求められている。3つの柱をバランスよく育ててほしい。
- ・運動好きのリーフレットを活用してほしい。
- ・総合教育センターのHP、単元計画の事例がおすすめ。

第2分科会

1 授業について

- ・運動好きになってもらうために音楽をかけたり、鬼ごっこをおこなったりする。
- ・ドリブルとパスの技能の定着を目的に的あてゲームをおこない、毎回記録をとったり、自分で距離を決めたりする。
- ・ボールを持っていないときの動き（オーバーラップ等）を掲示物等で示す。
- ・上手な人がボールを持った時が一つのチャンスであり、裏をとる動きを教える。
- ・6個のゴールを設置し、なるべく多くの得点機会をつくる。

2 研究協議

- ・ドリブル、トラップ、パス練習では器具を工夫して活用していた。
- ・ゴールの位置をもっと工夫したほうがよかった。（減らす、サイドライン側におく）
- ・撮影した動画の活用法を考えたほうがいい。（10分以上の動画をどうするか）
- ・慣れの運動のテンポがよかった。
- ・柔らかいボールを使用し、「痛い」や「怖い」という思いを軽減できていた。
- ・男女混合チームは、教え合いの観点ではよかった。デメリットはお互いに思いきってプレイできていなかった。

3 指導講評

- ・知識、技能を身につけることが思考、判断の評価につながる。
- ・自主的に調整したり、プログラムを選んだりする力が大切。
- ・コートのはしは長方形より正方形に近い形のほうがよかった。
- ・男女混合のチームでおこなうなら、練習はグループで、試合は男女別でおこなったほうがよかった。

さいたま市立西原中学校

単 元 名

授 業 者

＜研究授業＞

・「アルティメット」

瀧 澤 裕 樹

市 河 勇 太

高 橋 紀 子

研究協議会

- ・第1分科会 「仲間と豊かに関わり、お互いを高め合える学習指導の工夫」
- ・第2分科会 「主体的で対話的な深い学び合いを通して、自己有用感を高める学習指導の工夫」

司 会 者

- ・第1分科会 田 熊 秀 行 （さいたま市立日進中学校）
- ・第2分科会 佐 藤 拓 哉 （さいたま市立七里中学校）

指導・助言者

埼玉県教育局県立学校部保健体育課指導主事

新 井 知 章

さいたま市教育委員会学校教育部指導1課主任指導主事

笛 田 透

《活動の様子》



さいたま市立西原中学校

単 元 名	「アルティメット」
指 導 者	瀧 澤 裕 樹（たきざわ ひろき） 市 河 勇 太（いちかわゆうた） 高 橋 紀 子（たかはし のりこ）
単 元 目 標	○アルティメットの技術の名称や行い方、運動観察の方法などを理解するとともに、安定したディスク操作と空間を作り出す動きによって、攻防ができる。 【知識及び技能】 ○試合における自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを、他者に伝えることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 ○アルティメットに自主的に取り組むとともに、フェアプレイを大切に、作戦などの話し合いに貢献しようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどから、健康安全を確保することができる。 【学びに向かう力、人間性等】
本時の目標	○作戦などの話し合いの場面で、合意形成するための関わり方を見つけ、仲間に伝えることができる。 【思考力、判断力、表現力等】
授 業 内 容	～ブリーフィング～ ～用具の点検・手洗い・消毒～ 1 集合・整列、健康観察、挨拶 2 前時の振り返り、本時の流れ確認、チームミーティング 3 ウォーミングアップ（体操、基礎練習） 4 感覚づくりの運動 5 ねらい、課題の確認 6 ゲーム 5分ゲーム×3本（休みのチームは、試合をしているチームを分析する。） 7 個人での振り返り 8 チームでの振り返り 9 集合・整理運動・健康観察 10 整理体操 11 学習のまとめ、振り返り 12 本時の狙いと達成状況の確認（成果と課題） 13 次時の予告 14 あいさつ、解散 15 片付け ～ブリーフィング～

令和4年度 第47回 中学校保健体育授業研究会

第1分科会

「仲間と豊かに関わり、お互いを高め合える学習指導の工夫」

1 授業について

- ・アルティメットは、一般的なゴール型の種目とは異なり、フライングディスクを使用するため、全員が同じようにゼロからスタートして技能を習得するため、比較的容易にパスをすることができ、ゲームの楽しさを味わうことができる種目である。
- ・ディスク保持者は歩くことができないため、保持者以外の一人一人のオフザボールの動きが重要になる。また、運動量が確保できると同時に、様々な作戦を実行しやすい。
- ・男女の仲が良いこと、アルティメットが接触禁止というルールにより、安全性を確保できることから男女共習で授業を展開した。
- ・「伝え合う」「話し合う」というテーマの下、Teams を介してゲーム分析を行い、フィッシュボーン図を活用することで課題を発見できるよう促し、練習前やゲームの後など話し合う機会を設けた。
- ・本日は太陽の光の関係でプレポスアプリ（今年度は無料）の使用を断念した。

2 研究協議

- ・目標カードや分析カード、作戦ボードを上手く活用することができていた。
- ・個人だけではなく、チームで課題を明確にして、ゲーム中に動いていることが素晴らしかった。
- ・男女に技能差に見られるため、男女別でゲームを行える選択肢があってもよい。男女共習でゲームを行う場合には、男女間でのパス交換や女子の得点を2倍等のゲームルールの工夫があるとよい。
- ・個人アドバイスカードを活用し、仲間の良い動きやたくさん動いてもディスクをもらうことができなかった理由等を互いに伝え合うことで、高め合えることができるのではないかと。

3 指導・講評

- ・新学習指導要領に明記されている種目については、授業で取り扱うことができる。その際、学習計画、評価規準等を明確にすることが必要である。
- ・新学習指導要領では、12年間の成長段階を踏まえたつくりになっているため、中学校3年生で終わるのではなく、高等学校への接続を大切にする。
- ・教師が理解した運動の特性を生徒に理解させる。生徒の目線に立ち、生徒にとっての魅力を考えることが大切になる。
- ・目指すゴール像を設定し、それを生徒たちも分かるようにする。単元計画を立てる上で、各時間の目的を分けて考えるとうい。
- ・男女共習で授業を展開することでより多くの学びがあり、豊かなスポーツライフの実現に繋げることができる。しかし、男女の技能を考えるとゲームルールの工夫や場の工夫が必要となる。また、保健体育だけではなく学校全体として取り組むべきところ。
- ・ICT の活用は使うことが目的ではなく、生徒のどの力を伸ばすために ICT を活用するのか明確にすることが大切。

第2分科会

「主体的で対話的な深い学び合いを通して、自己有用感を高める学習指導の工夫」

1 授業について

- ・アルティメットは、運動の得手不得手関係なく、全ての生徒がゼロスタートで行うことができるため、3年間を見通して、1学年から3学年まで継続的に段階に応じて取り組んだ。
- ・アルティメットはセルフジャッジ制のため、主体的に学習に取り組む態度の中の公正・公平な判断の育成につながる。
- ・ルールの特性上、非接触で行うため、新型コロナへの感染予防の観点からも実施しやすい。また、男女混合チームでの活動や対戦を行うことができた。
- ・フィッシュボーンを活用したことにより、課題を明確にし、課題を達成するための活動につなげることができた。
- ・アプリを活用し、上空から撮影した映像を Teams で共有したことにより、自己や自チームの課題を視覚的、客観的に確認し、分析することができた。しかし、本来であれば授業内で行うものを自宅や授業前の予習となってしまうことが課題となった。
- ・普段技能でC評価をとる生徒が、ゲーム分析やアドバイス等でチームに貢献し、自信をつけることができた。

2 研究協議

- ・練習、ゲームを通して、運動量を確保することができていた。
- ・動画を確認することで、予習・復習につながり、授業へのモチベーションが上がっていた。
- ・チームの中で、様々な役割を与えたことで、運動が苦手な生徒も分析などで活躍し、自己有用感の向上につながっていた。
- ・活動量の確保は必要だが、ねらいに応じて思い切って1時間、分析・作戦の時間を設けてもよい。
- ・男子の活躍が目立ったため、女子の得点を倍点にする、初得点の生徒全てを倍点にする等、ルールの工夫をすると全員が活躍できる。

3 指導・講評

- ・アルティメットを取り扱っている学校は少ないが、全員がフラットに行うことができるため、多くの生徒に技能の向上が見られる種目である。
- ・本時の評価項目以外にも変化が見られた場合には評価してよい。意図的、計画的に思考を伸ばしていく。発言に注目し、小出しにヒントを与え、考えさせることが自主性につながる。
- ・プレボスアプリは2画面同時再生ができるため、「分かる」「できる」を伸ばすツールとして有効。
- ・フィッシュボーンを活用することで、疑問や方法等、課題を掘り下げ、可視化することができる。
- ・動画の撮影については、局面把握等、何を見たいかで撮影方法が変わってくる。ただ、撮影するのではなく、撮りたいものが撮れたかを確認し、修正することが大切。
- ・生徒に「楽しい」と感じさせることで、生涯に渡ってスポーツに親しむ人を増やしたい。

編集にあたり

先ず以て、授業を提供していただきました各学校の校長先生をはじめとする先生方、懇切丁寧な御指導をいただきました県教育局県立学校部保健体育課及びさいたま市教育委員会学校教育部指導1課並びに各教育事務所、県立総合教育センター、関係の各市町村教育委員会の先生方に心より感謝申し上げます。

今年度で第47回になります中学校体育授業研究会は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じ、県内10校全てで開催することができました。公開された授業については、各地区の研究常任委員が全ての学習指導案及び学習資料を保管しております。また、県中学校体育連盟事務局HPにもそれらの資料等が閲覧できるよう保管しておりますので、是非御活用ください。

今年度より、実施した地区の指導案については、県中体連ホームページに掲載しておりますので、この「第47回中学校体育授業研究会」のまとめとともに十分に御活用いただき、本県中学校体育の課題である「運動好きな児童・生徒の育成」の推進にさらに努めていただきたいと思います。

保健体育科の指導は「明るく豊かな生活を営む態度を育てる」ことを目指し、心と体をより一体としてとらえ、体育と保健を一層関連させて指導することが重要であります。今後も学習指導要領の趣旨を踏まえながら、「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成」、「健康の保持増進のための実践力の育成」及び「体力の向上」について相互に関連させ、生徒のさらなる意欲向上のために研究を進めていただき、本誌がその一助としていただけたら幸いです。

----- 問い合わせ先 -----

埼玉県中学校体育連盟 事務局

〒330-0062

さいたま市浦和区仲町3-5-1

埼玉県県民健康センター内

T E L 048-822-8876

F A X 048-822-0281

E-mail sai-chuutairen.go-go@leaf.ocn.ne.jp

